

【広域ブロック自立施策推進調査】

フォローアップ報告書

調査名		6.多様で豊かな地域資源を活かした北陸地域の交流活性化に資する仕掛けづくりに関する調査	
調査主体	幹事府省(庁)局課名	国土交通省北陸信越運輸局	
	関係府省(庁)局課名等	国土交通省北陸地方整備局、国土交通省中部運輸局、経済産業省中部経済産業局、農林水産省北陸農政局	
調査地域		富山県、石川県、福井県	
調査年度		平成20年度	
配分額		17,025千円	
調査概要	調査内容	<p>将来的な人口減少時代の到来が予想されるなか、北陸圏としては、国内外からの交流の活性化に向けた魅力ある地域資源の活用に取り組んでいくことが重要となっており、数年後の北陸新幹線開業が迫るなか、新しい人的交流ポテンシャルを有効に活かした地域活性化に向けた北陸の地域戦略を構築することが緊急の課題となっている。こうした中、関係機関が連携し、以下に掲げる検討を行い北陸圏の有する多様な地域資源を活かした北陸の交流活性化のための具体的方策(仕掛け)を明らかにすることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内外の広域的な人的交流の実態把握・ニーズ分析 ・「北陸らしさ」を備えた地域資源の掘り起こし ・他圏域等における交流活性化のための具体的方策(仕掛け)に関する先進事例調査 ・北陸における交流活性化の課題・具体的方策(仕掛け)の検討及びその実現に向けたフィージビリティ調査 	
	調査結果(成果)	<p>平成26年度の北陸新幹線金沢開業を見据えた北陸の観光戦略の構築・実践に向け、有識者、北陸3県の行政関係者・観光連盟、北陸の経済団体、観光関係事業者、観光交流や地域づくりに取組む関係者、交通関係事業者、国(国土交通省、農林水産省、経済産業省)の地方支分部局等により構成される「北陸圏交流活性化方策調査検討委員会・WG」を設立し、観光まちづくりに積極的に取組む北陸各地の現地視察も行いながら、北陸圏が連携して取り組むべき具体的方策の検討を行い、7つの仕掛けについて具体的方策をまとめた。</p>	
	関係する広域地方計画(中間整理(案)等)	北陸圏広域地方計画第3章第2項・第4章第3項	
		調査結果の活用状況	調査結果を受けた具体化
計画	期待される効果等	<p>今後、北陸圏の連携推進体制の強化により、以下の7つの仕掛けについて実践に向けた具体化が期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)北陸観光ポータルサイトの作成 2)北陸・物語情報の編集(北陸の魅力の深掘り・編集) 3)北陸のパブリシティ窓口の形成 4)365日魅力的な着地プログラムの提供 5)北陸観光まちづくりの推進(北陸ツーリズム大学(仮称)の実施) 6)マーケティング調査の継続的な実施 7)観光案内の連携・機能強化 <p>なお、今後、本調査の成果について、北陸経済連合会の広域観光推進委員会にて報告予定。</p>	
	21年度	<p>・北陸経済連合会、北陸広域観光推進協議会、北陸信越運輸局の共催で合同観光戦略セミナーを開催。</p> <p>・「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏」(平成21年4月認定)において、観光まちづくり塾を開催するとともに誘客促進のため観光情報の発信を実施し、着地型旅行商品販売を推進。</p>	
22年度	<p>・北陸経済連合会において、北陸の魅力を効果的に紹介する物語として「北陸物語」が編集され、さらに北陸広域観光モデルコースの改訂版が発行。</p> <p>・「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏」(平成21年4月認定)において、体験型メニューをテーマ毎に設定し、着地型旅行商品造成に取り組むとともに観光圏ホームページを作成し、観光情報の発信を実施。</p> <p>・「能登半島観光圏」(平成21年4月認定)において、観光フェアへの出展を通じてPR事業を実施。</p> <p>・「越中・飛騨観光圏」(平成22年4月認定)において、観光圏総合案内所を整備し、圏域の情報提供を行うとともに圏域内の周遊連泊促進事業を実施。</p>		

オ ロ ー ア ッ プ	23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・主に中華圏からのインバウンドを推進するため、中部圏と連携して昇龍道プロジェクトを開始。 ・北陸経済連合会において、旅行会社からの要望等に基づき選定され、5つの物語及びそれぞれのモデルコースが盛り込まれた「北陸物語VOL.2」が編集され、さらに北陸観光ポータルサイトとして北陸経済連合会のHPで「北陸物語」サイトの運営が開始。 ・「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏」(平成21年4月認定)において、一元的に着地型旅行商品の造成・販売、情報収集・発信を行うための中核組織としての観光地域づくりプラットフォームを設立。 ・「越中・飛騨観光圏」(平成22年4月認定)において、観光圏におけるブランドイメージの確立を行うとともにエリア別の誘客プロモーション戦略の構築を実施。 ・「立山黒部アルペンルート広域観光圏」(平成22年4月認定)において、旅行者に対するワンストップサービスを提供し、旅行者と地域を媒介とするコーディネーターとしての観光地域づくりプラットフォームを設立。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「昇龍道プロジェクト推進協議会」が発足。
	総括的評価	<p>本調査を踏まえ、北陸圏広域地方計画の広域連携プロジェクトとして、「高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成プロジェクト」が掲げられた。また、北陸地域全体では、北陸経済連合会が主体的となって北陸地域の観光資源に係る効果的な情報提供を行っており、そして各地域においては、観光圏の枠組みによって地方自治体、観光協会、旅館組合等の関係者の連携のもと観光人材の育成、着地型旅行商品の提供、効果的な情報提供等が行われている。さらにビジットジャパン地方連携事業においても、大自然、伝統文化など地域の強みを活かした提案募集を行っている。よって、当初の期待された効果は達成されたと考えられる。</p>	